

2019年度版 改善計画

学校名：山梨県立甲府城西高等学校

No.	項目	現状と課題	2020年度に目指すべき状態	①2019年度に実施する内容 ②2020年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	会議が多い。会議の長時間化。	会議回数の削減と、会議時間が短縮されている。	① 職員会議と研修会をセットにし、会議回数の効率化を図るとともに、会議時間が最長でも1時間を超えないようにする。資料の事前配付をし、議題について各分掌間で連絡・調整を行い、問題点とその解決策を明らかにして会議に臨む。会議作成資料は簡潔に要点をまとめて箇条書きする等の工夫。 ② 会議時間の短縮。各会議構成員の精選。会議資料のペーパーレス化。	
2	学校行事の負担軽減	行事が多く、その必要性の検証もなされていない。	各行事におけるPDCAサイクルが確立されている。	① 「きずなの日」、「定時退校日」を毎月2回設定する。行事実施後のアンケートや意見をもとに次年度の計画を、今年度中に決定する。 ② 行事の重点化を図り、スクラップ&ビルドの推進。	
3	校内組織の見直し	分掌や委員会の業務内容に見合った人員配置や、統合・削減を検討する必要がある。	分掌・委員会構成員が適正数であり、統合や削減が行われ、校内組織が円滑に進められている。	① 各分掌の業務内容を明確化にし、分掌構成員数の見直しを行う。 ② 分掌や委員会構成員の人数の検討ならびに統合や削減を検討。	
4	業務の効率化	朝礼時の連絡事項が多い。資料作成業務の増大。	情報機器の活用、ICTの利用で業務の効率化が図られている。	① グレープウェア・ブルームール（校内メーリングリスト）の活用推進。 ② 情報機器の活用、ICTの利用に関する適切な研修を実施。	
5	部活動の負担軽減	休養日が少ない部活動がある。部活動指導において負担の偏りがある。	「甲府城西高校運動部活動に係る活動方針」に沿った運動部活動の実践がなされている。	① 部活動顧問の複数配置。学期中は週あたり2日（平日1日、土日のうち1日）以上の休養日を設ける。教員の勤務時間管理による過重負担顧問と管理職が面談を実施し、働き方を見直す契機とする。 ② 週休日・休日等の部活動指導回数を、全ての教員が年間86回未満となるよう検討する。	
6	地域人材の活用	授業では活用されているが、部活動指導では不十分である。	部活動指導で積極的に活用されている。	① 外部指導者の選抜と謝礼等について検討する。 ② 部活動指導者の増加。	
7	（学校独自の項目）	学習指導で、基礎的学力向上を効率的に図る必要がある。	学力向上の効果的な実現のため、ICTの活用が推進されている。	① スタディサプリの活用による担任・教科指導の負担軽減・効率化 ② スタディサプリの幅広い活用方法の検討。	
8	（学校独自の項目）	学校業務全体において負担の偏りがある。	全職員が公平に業務を分担し合い、教育活動に取り組んでいる。	① 管理職面接を年3回実施し、勤務実態の把握に努め改善を勧める。 ② チーム学校として、全員で取り組み負担の偏りをなくす。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

